ひかり

第85号
（令和8年7月）
浄光寺寺報

山形市八日町
2-4-35
(023)622-6010

令和八年 盂蘭盆施餓鬼法要のご案内

残る蚊の痩せてあはれや施餓鬼棚（子規）

お盆での棚経が先祖などの有縁の精霊を供養するのに対し、施餓鬼は無縁の精霊に飲み物や食べ物を供えてその霊を慰めるというものです。
お寺で施餓鬼法要をするのは、無縁の精霊が安らかになることを念ずることにより、その功徳が有縁の精霊に及ぶという意味で、特にお盆に施餓鬼が営まれるようになりました。（当山では春秋の彼岸も施餓鬼を営んでいます）



冒頭に挙げた俳句では、夏の終わりの痩せた蚊が餓鬼になぞられています。蚊も餓鬼と同類であるのに、蚊は疎まれるだけで供養されることがない、という皮肉も感じられます。下記日程により恒例の盂蘭盆施餓鬼法要を執り行います。

亡き父母やご先祖様に報恩のお塔婆を立て、お墓や仏壇をきれいにしてお盆を迎えたいものです。
皆様のご参拝をお待ち申し上げます

合掌

記

八月二日（日）八月第一日曜日

午前十時半　盂蘭盆法話

午前十一時　施餓鬼法要

ご一緒に開経偈・方便品・自我偈（真読）をお読みしますので必要な方は経本をご持参ください

※お塔婆の新規申し込みや変更のある方はお早めに寺までご連絡ください（一本　二千五百円）
※本年新盆に当たる精霊に対し卒塔婆をお立てになり供養することをお勧めします。
※法要後に食事をお渡しいたします

《お盆棚経のご連絡》

檀家の皆様のご自宅にお伺いし、御仏壇にてご先祖様へ読経回向するお盆の棚経についてご連絡いたします。
昨年同様に諸般の状況を鑑みて本年の棚経を辞退される方は、お手数ですがお寺までその旨をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

浄光寺　永代供養塔

客殿西側大しだれ桜の近くに平成二十一年永代供養塔を建立し十七年の歳月が経過しました。
お檀家様で後継者がいない方のために、また無縁の霊やお墓が増えないように、その様な思いで建立しました。
以来多くの諸霊が永代供養塔に合祀されております。春秋のお彼岸やお盆の際に卒塔婆を立て、供養塔前にて読経・回向致しております。





将来の不安や負担がない樹木葬

さらにお墓に関する様々な不安や負担に寄り添い、それぞれのライフスタイルに合わせてご使用いただけるガーデンメモリアル山形 浄光寺樹木葬をこの度駐車場南側に開園いたしました。こんな方にオススメです。



お寺としてはこの樹木葬霊園が一つの仏縁となり今後浄光寺と利用者との関係が深まるように精進して参る所存です。

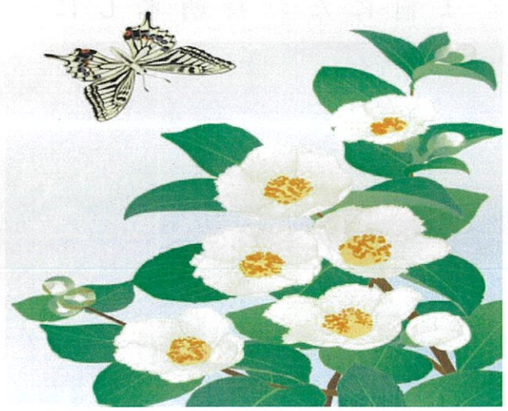


シンボルツリー
沙羅双樹
(サラソウジュ)





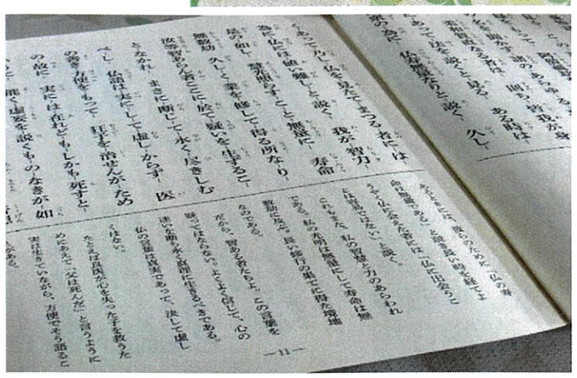
仏教では「無憂樹」「菩提樹」「沙羅双樹」を神聖な木として三大聖木と称しています。
「無憂樹」（むゆうじゅ）の別名はアショーカ。マメ科に属します。
お釈迦様の母マーヤが出産されたのが、ルンビニ園で花を付けていたこの木の根元でした。苦痛もなくすんなりと出産できたのでなんら憂いが無い安産の木として知られています。
「菩提樹」はクワ科でイチジクの仲間です。
お釈迦様が修行された後、菩提樹の木陰で深い瞑想に入られ、人間の煩悩から解放されて悟りを得られた木で有名です。
「沙羅」（さら）の木は夏ツバキのことです。
お釈迦様が八十歳で入滅された地（クシナガラ）の東西南北それぞれに二本ずつ沙羅が咲き誇っていたことから沙羅双樹と言っています。また平家物語の冒頭には「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理を表す」と誰でも永遠はあり得ないという例えを沙羅双樹で表現しています。
浄光寺樹木葬のシンボルツリーの沙羅双樹は夏になると真っ白い可憐な花を咲かせますので三大聖木のひとつだなとご覧いただければと思います。



訓読妙法蓮華経―法事用―

この寺報「ひかり」の紙上で八回にわたり掲載したお経の解説をもとに、この度訓読妙法蓮華経―法事用―を日蓮宗山形県教化センターより出版いたしました。
お経は真読（漢字をそのまま読む）が正式といわれますが、意味が解りづらいという面もあります。そこでこの度訓読（日本語の語順に並べ替えて読む）の経本を作成し、主に法事の際に参列者と一緒に読んでいただける体裁にしました。同時に「ひかり」で掲載した経文の解説も付け加えました。これによってより理解しやすい経本となり、多くの方に親しみを持っていただきたいと念願しております。
本堂・仏殿等でご法事の際、皆様と一緒にお読みします。





※ご自宅用に購入したい方には一冊一〇〇〇円でお分けいたします。

身延山団体参拝のご報告

去る五月二十五～二十八日恒例の身延山団体参拝に行って参りました。今年度は玄妙寺と蓮成寺（朝日町）との三ヶ寺合同の団参で浄光寺二十一名、玄妙寺十五名、蓮成寺六名、計四十二名の参加となりました。

一日目は午前七時に玄妙寺に集合し、本堂で一読して一路身延山に向けバスで移動。羽生ＳＡで昼食、談合坂ＳＡで休憩をとりながら午後三時に身延山に到着、ロープウェイに乗って奥の院両親閣に登詣、御開帳を受け宿坊の清水房に宿泊しました。



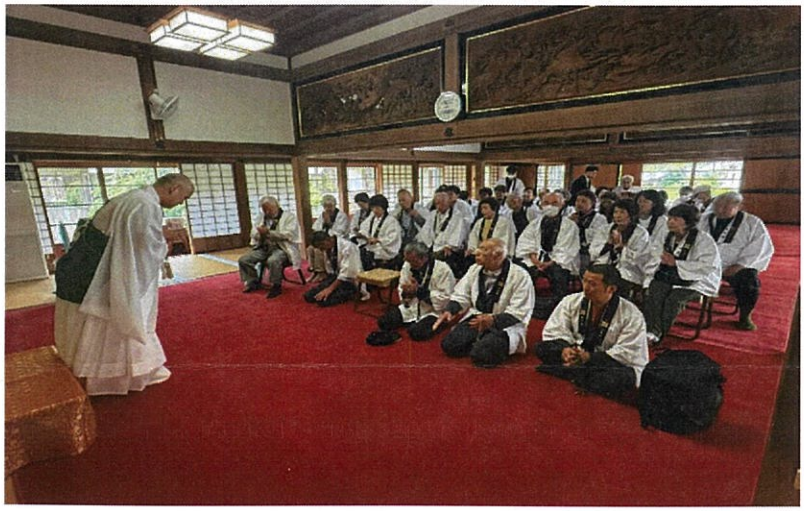


二日目早朝より久遠寺に斜行エレベーターを利用して登詣。五時半より大本堂、六時より祖師堂にて朝勤。六時半より仏殿にて特別法要を執り行い、歯骨の納骨や諸霊のご供養をいたしました。その後新書院にて朝食休憩をはさんで午前九時より輪番奉仕に臨みました。

その後七面山組と観光組に分かれました。心配された雨も降らず夫々無事日程をこなし翌日昼に合流。箱根湯本温泉かじか荘で旅の疲れを癒し夕食では大いに懇親を深めることができました。

最終日は箱根大涌谷で絶景を眺め名物の黒玉子を食べて寿命を延ばし、横浜中華街のレストランで昼食を取り一路山形に戻って参りました。

全員元気で定刻より早く到着することができました。参加者の皆様のご協力に感謝申し上げます。



※浄光寺では海野たき子様・佐藤明夫様が夫々輪番奉仕三十回、十回の表彰をうけられました。

輪番奉仕とは日蓮聖人ご入滅の後、遺言により御廟所（日蓮聖人の墓）を六老僧（日蓮聖人より指名された六人の高僧）が一ヶ月毎に輪番でお護りしたという故事に則り、その日一日は日蓮宗徒を代表して御廟所（最近は御真骨堂）をお護りするという日蓮宗にとって大事な行事のことをいいます。